

# 農業委員会だより

## きたみ 30

発行・編集

北見市二農業委員会だより編集委員会

（事務局 北見市大通西3丁目1番地1）  
TEL 0157-25-1190  
FAX 0157-26-5573  
E-mail nochi@city.kitami.lg.jp



### 主な内容

- 担い手 ～山口 翔史さん（常呂町岐阜地区）
- 「北見市農業振興地域整備計画」の全体見直しについて
- 私の思う農の匠 ～芝山 和雄さん（富里地区）
- 農地転用には許可や届出が必要です！！
- 新規就農 ～宮下 広大さん（三輪地区）
- 優良農村青年表彰
- ストップ農作業事故！



# 担い手

常呂町岐阜地区 畑作 山口 翔史さん(35)



私が岡田農場で農家を始めたきっかけは、シンプルに妻が農家の娘で「一緒にここで農家がしたい」という強い思いに心を動かされたからです。市内の一般食品会社に2年勤め、仕事に慣れたときのこと

だったので、かなり戸惑い、すぐには決断することができませんでした。妻の家は日々続く農家で小麦、甜菜、玉葱、馬鈴薯を作付し、24haを経営しています。私がおの後継者になることや、まったく農業に対して知識や経験がない自分ができるのかと最初は不安でした。しかし、妻と同じ仕事ができることや、喜びも苦労も共有できること、家族との時間を自分で作れるので農家で良かったと思います。

んでした。少しずつ仕事を任せてくれて徐々に理解していったものの、はたしてこれで合っているのか、きちんとできているのかと精神的にも、体力的にも辛いことが多くありました。そんな自分に対して妻や父、母がどんな時でも親切に、焦らすことなく熱心に接してくれたことで、心が折れることなく農家を続けてこられました。本当に感謝しています。

最近では妻も子ども達を母に見てもらい一緒に畑で作業する時間ができ、心の支えとなっています。苦勞し切磋琢磨して良い物がとれた時の感動も一緒に共有でき、農家の良さを感じています。また、風や長雨に弱い地域ですので、良い結果にならない年もありますが、自分のやったことに対し、答えが返ってくることも農家の魅力です。

平成22年に研修として1年間農業に携わり、翌年就農、結婚、3人の子ともに恵まれ10年が経ちました。現在では会社を設立し(株)オホーツク岡田農場の代表取締役をしています。就農当初は農業特有の専門用語が全く分からず、畑のことや、機械のことなど、家族の会話についていけないことがかりでした。一日の

私もだんだん仕事に慣れたため、新しい取り組みや技術などに対し父は、臆することなくやってみると背中を押してくれ、とても頼りに思います。地域の方々も親切に色々なアドバイスを手助けしてくれ、私の持つ農家のイメージとは正反対でした。青年部のメンバーとの情報交換や、同じ作物を作る人達との勉強、共同で作業することもあり、常呂町で農業をする一人として、また、農家戸数が減ってきている現状で地域の畑を守っていく担い手の一人として、これからも感謝の気持ち忘れず頑張っていきたいと思っています。

# 私の思う農の匠

富里地区 酪農 芝山 和雄さん(64)



「農」とは、植物や家畜に依って、太陽の核融合反応によって産出されたエネルギーを、食品という形に変換・固定して、人間が命をつないでいくために常統的に補給しなければならぬ化学エネルギーを提供する働きである。

酪農では、牧草を乳牛に食べてもらい、糞尿を堆肥化して草地に戻すサイクルの中で、人間が牛乳や肉を提供してもらっている。牧草を人間が食べることはできないが、牧草は太陽エネルギーによって大地から吸収した無機質を植物体内においてタンパク質をはじめミネラルや糖分に変換しており、その牧草(一次生産物)を乳牛はルーメン(第一胃)以下で発酵・消化し血液を介して牛乳や肉(二次生産物)に変換・固定し

ている。大地は、一連のエネルギー変換・固定作業において全ての基盤であり、循環的に堆肥が供給されることで、持続的に生産の基盤として機能する。

この「農」の営みを何千年にもわたり営々と続けてきたのが「匠」であり、その知恵や工夫が国土・社会を形成し、人類の発展を支えてきた。酪農では、草地の顔色をうかがい、牧草を評価し、牛のご機嫌から牛乳や肉の品質を推し量る。これら技術は、これまでは個々の「匠」に蓄積されてきたが、昨今の高齢化・担い手不足で、「匠」の技術の伝承が危機に遭遇している。そこで、これまでの個々の「匠」の技術をデータベース化して、普及所や試験場のほか関係機関が共有し、関係機関の持つ情報と機動力を連携させてシステムとしての「匠」の技を体系化することで、「農」の力を飛躍的に発展させることができる。すなわち、海外依存度の高い食糧戦略を抜本的に改革して、食による安全保障を確立する一方、一次生産物、二次生産物の太陽エネルギー変換能力は、バイオマスのように、輸入資源に依存した化石燃料や放射性物質を燃やす現行のエネルギー戦略とは異なるエネルギー革命につながる新しい「農」の展開である。

いつの時代にあっても「農」が国の根幹を支え、その健全な成長が国の発展につながるのである。その「匠」を農業委員会が統括することに期待したい。

## 農地転用には許可や届出が必要です!!

### 農地の転用とは?

農地を住宅や倉庫等の建物敷地、資材置場や作業場等の敷地、ソーラー発電設備の設置、植林等の「農地以外の用地に転換すること」です。また、一時的に資材置場や砂利採取場、残土置場等に利用する場合も転用になります。

なお、農地であるかどうかについては、農業委員会で必ず確認しましょう。

### 許可を受けるには

該当農地の場所等によって許可の基準が異なり、許可または届出が必要となります。許可がおりの場合は、約3ヶ月前後かかります。また、4haを超える転用や他の法令等の許可が必要な場合は、さらに時間を要します。

時間にゆとりを持って計画し、事前に農業委員会に相談しましょう。

#### 〈他の法令等の許可の例〉

市町村が定める農業振興地域整備計画において農用地区域とされた区域内の農地を転用する場合、農用地区域からの除外や用途変更の手続きが必要となります。

## 「北見市農業振興地域整備計画」の全体見直しについて

令和3年度は「北見市農業振興地域整備計画」の全体見直しの年度となります。

全体見直しは、「農業振興地域の整備に関する法律(農振法)」に基づき、農業の健全な発展、農地の合理的な利用に役立てるため、計画をおおむね5年ごとに見直すものです。

このため、例年行っている7・8・9月の計画の変更申請受付は7月受付(7月15日締切)となり、「全体見直し」と並行して行うことから、計画の変更は年度末となります。詳細につきましては、農政課へお問い合わせ下さい。

北見市農林水産部 農政課 Tel: 0157-25-1142

# 新規就農

三輪地区 畑作  
宮下 広太さん (23)



私が、実家に就農し一年が経ちました。

就農する前に農業の勉強がしたいと思い、酪農学園大学に4年間通いました。大学では農業の知識を学び、農業試験場の方達と知り合う機会があり、様々な最先端の技術を使った研究を見て刺激を受けました。さらに、農業試験場の方達と共同研究を行わせていただき、将来は積極的に最先端の技術を取り入れ、より効率的な農業をしたいと思いました。

大学を卒業し、就農したこの一年間とはかくいろいろな仕事をし、大変でしたがとてもいい経験になりました。大学では学べなかったことが

多く、特に機械関係の操作を経験できる機会がたくさんあり、大分機械操作を覚えることができました。

去年宮下家ではトラクターの一台に自動運転機能を搭載しました。大学生活で見えてきた最先端の技術を現場に実装する段階にきているのだなと実感しました。

今年の目標は、防除作業を覚えることです。農薬の種類、スプレヤーの操作など覚えることがたくさんあります。さらにこれらの作業は慎重に行わなければなりません。特に私の家は、住宅街にある畑が多く、交通量が多い中、スプレヤーをトラクターでけん引して移動するため、交通事故にも気を付けなければなりません。安全第一で一つずつ確実に覚えていきたいです。

去年はコロナの影響で、農協青年部、玉ねぎ振興会青年部の活動があまり行えず、いろいろな方達との交流もなく、非常に残念な年でした。コロナが落ち着き、活動が行える状況になることを楽しみにしています。

## 優良農村青年表彰



齊藤 太賀さん



菅原 祐太郎さん



小野 敬市さん

令和2年度の優良農村青年として、北見市からは小野敬市さん、菅原祐太郎さん、齊藤太賀さんの3名がオホーツク農業委員会連合会より表彰をうけました。

この表彰は、過去3年以上農業の担い手として従事し、農業技術の普及や推進、グループ活動にたいして指導力を発揮した農業青年に贈られるものです。

農作業事故を防止しよう。

「ストップ農作業事故！」

春の農作業が本格化する季節です。農作業時の事故や公道での一般車両と農業機械との接触事故など、十分ご注意ください。ゆとりをもって安全な農作業で事故を防ぎましょう。

## 編集後記

少しずつ春の陽気が感じられ、冬の終わりを迎えようとしています。農作業も始まり、あわただしい時期となってきますが、ケガや事故等には、くれぐれもお気を付け下さい。

また、今回の発行に関し取材にご支援、ご協力いただいた皆様には、大変お世話になり感謝申し上げます。これからも本誌を通して、委員の活動や地域農業の情報を農家の皆様に分かりやすく、親しみやすく伝えていきたいと思っておりますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

(川村編集委員記)

表紙

端野地区圃場